

第1回南砺市立学校のあり方検討委員会会議録（要点記録）

【日時】 令和2年9月30日（水）開会：午後7時00分 閉会：午後9時00分

【場所】 南砺市役所 福光庁舎別館3階 大ホール

【出席委員】 19人

松山 友之 委員長	石黒 公一 副委員長	齋藤 史朗 委員
税光 詩子 委員	野原 浩昭 委員	今井 幸代 委員
谷戸 仁美 委員	越山 穂高 委員	山崎 宏充 委員
長谷 英毅 委員	小原 治五右衛門 委員	柴田 昌尚 委員
湯浅 俊和 委員	大瀬 裕一 委員【代理】	酒井 堅信 委員【代理】
柳田 由紀 委員	大河原 晴子 委員	森田 清仁 委員
須河 紗也子 委員		

【欠席委員】 0人

【事務局員】

教 育 長 松本 謙一	教 育 部 長 村上 紀道
教 育 総 務 課 長 氏家 智伸	教 育 総 務 課 事 高田 公美
教 育 総 務 課 幹 川口 雅也	教 育 総 務 課 野村 大輔
教 主	副主幹（学務係長）

【傍聴人数】 1人

【協議事項等】

1. 開会 教育長あいさつ
2. 委員長、副委員長の選出について
3. 委員長あいさつ
4. 協議事項
 - （1）学校のあり方検討委員会のスケジュールについて
 - （2）教育委員会の方針（案）について
5. 次回協議会の日程
6. 閉会 副委員長あいさつ

[会議の概要]

○開会

教育総務課長 ただいまより、第1回南砺市立学校のあり方検討委員会を開会いたします。委員の委嘱については本来なら、お一人ずつ委嘱状をお渡しすべきところではありますが、時間の都合上、お手元に配布させていただきました。よろしくお願いいたします。本日は、酒井委員さんの代理として、大瀬裕一さん、東田委員さんの代理として酒井堅信さんにご出席いただいています。

1. 教育長あいさつ

教育長 委員の皆様におかれましては、南砺の子供たちのことを様々な立場から支えていただき、大変ありがたく思っております。この委員会では、ご承知のとおり南砺市の人口は減少している中で、子供たちにとって一番良い教育環境を用意したいと考えています。今回、皆様の貴重なご意見をいただき、共通理解できるものをつくりあげ、教育行政に邁進していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

2. 委員長、副委員長の選出について

事務局 次に、委員長、副委員長の選出に入ります。資料1の「南砺市立学校のあり方検討委員会設置要綱」の第5条第1項に「委員会に、委員長及び副委員長各1人を置く」、第2項に「委員長は委員の互選によりこれを定め、副委員長は委員長が指名する。」となっております。委員長の候補者については、僭越ではございますが、事務局から提案させていただきますのでよろしいでしょうか。

委員 異議なし

事務局 それでは、委員長には、富山国際大学准教授の松山友之委員に就任していただきたいと思っております。なお、設置要綱により「副委員長は委員長が指名する。」となっております。松山委員長に副委員長の指名をお願いいたします。

委員長 それでは、副委員長に南砺市PTA連絡協議会長の石黒公一さんに副委員長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局 それでは、委員の皆様のご了承により、決定したいと思いますので、ご異議がなければ、拍手をもってご承認をお願いいたします。

委員 一同拍手

3. 委員長あいさつ

委員長 皆様からご協力をいただき、良い委員会にしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。教員生活の25年間、南砺市で教員させていただきました。教育

長の方から「子供たちに一番良い環境を」というお話がありました。恩返しのつもりで、できるだけのことをしたいと思っています。皆様のご協力をお願いいたします。

4. 協議事項

(1) 学校のあり方検討委員会のスケジュールについて

委員長 「学校あり方検討委員会のスケジュールについて」事務局から資料の説明をしてください。

事務局 【資料2の説明】

(2) 教育委員会の方針（案）について

委員長 教育委員会の方針（案）について、事務局から説明をお願いします。

事務局 【資料3～7の説明】

委員A 先ほどの説明では、「子供たちに良い環境」という話の中で、小規模校の話ばかりされていました。旧福野町のような大規模校のメリットを考えていただきたいです。福野が損をしているように感じました。

事務局 福野小・中学校は中規模校です。福野小・中学校は、1学年に3学級ありますが、児童生徒全員の名前と顔がわかる、オープンスペースが多くある等の、良い環境と言えます。それぞれの学校の環境の中で、その学校の最善を尽くすことが平等であると考えます。

委員A 福野は1学級35人を満たしますが、他の学校は35人より少ない学級になります。少ない人数の方が先生の目に入りやすい環境になります。そうすると、他の小規模校の方がよいのではないかと思います。

事務局 福野地域は児童生徒数が多い分、児童に目を行き届かせるために担任以外の先生也多めに配置するなど工夫をしています。小規模校・中規模校それぞれメリット・デメリットがあります。福野地域は人数が多い分、選択肢が増えてきます。小規模校も中規模校でも人間性を育成することなど、きめ細かく教育していきたいと思っています。

委員B 再編計画について、地域の方に伝え意見交換等していましたが、会議や説明会が行われていても関心のある人は少ないです。また、地域文化や伝統を残していこうとしています。地域にエキスパートがいて学べる環境がある中で、今後どのように学校と地域との関わっていくかが重要だと思います。

委員C 資料4の3ページ「保有すべき施設数とその主な考え方」には、文部科学省の基準により出生数から学校数を減らすとしています。しかし、南砺市の面積が広いということを考慮されていません。今後の学校のあり方を考えていく中で、面積が広いということを考えていくべきだと思います。

事務局 南砺市の面積が広いことは今後考えていく必要があります。また、旧町村の教育方針等も考慮していかなければならないと思います。最低限必要な公共施設面積を半分にすることを踏まえながら検討いたします。

委員D 今後、各地域に義務教育学校をつくる場合、井口のように校舎を新設されるということですか。

事務局 井口義務教育学校の場合は、井口小学校の校舎の耐用年数が近づいていたため、井口中学校に小学校分の学級を増やして改築しています。もし、城端地域に義務教育学校をつくっても新築にはなりません。城端中学校は1学年6学級分の教室があります。現在、城端中学校は1学年2学級、城端小学校も最大1学年3学級あるため、改修をすれば義務教育学校の校舎として使用することができます。福光中部小学校も大規模改修中ですが、今後、学級数が減って、福光中学校との義務教育学校になっても十分校舎として使用できます。新築せずに義務教育学校をつくることができます。

委員D 今年度からチーム担任制を実施し、時差出勤をしているというお話でしたが、学校の現状はどうなっていますか。

委員E 福野中学校ではチーム担任制を実施しています。1学年に学年主任、担任、副担任がいます。8時10分に出勤し、朝の会から出る先生と1限目に授業がなく9時10分に出勤する先生に分かれています。朝、ゆっくり学校に出勤するため、心に余裕のある先生が増えてきました。若い先生はベテランの先生から学べ、ベテランの先生も若い先生から学ぶことが増え、お互いに協力し合うなどのメリットがあります。

委員F 小学校では、学級担任が授業しているため、時差出勤をすることが難しいです。しかし、1学年2学級ある学校は、朝の会を合同に行うことが可能です。その場合は、朝の会から出勤する先生、1限目に間に合うように出勤する先生と分けることができます。これまでも、教科によってチーム担任制を実施してきました。今後も、先生の負担等を考えつつ、効率的に運べるものであれば必要に応じて積極的に実施していきたいと思います。

委員D 利賀地域の児童生徒数がすごく少ないですが、統合せずに地域の1つとして学校は残していくのでしょうか。

事務局 利賀地域は山村留学等の事業が進んでいて、非常に熱い思いがあります。もし、PTAの方で統合したいということがあれば、尊重します。しかし、教育委員会から強制的に統合するということはありません。人数の少ない、多いは関係なく、地域の方々と考えていきたいと思っています。

委員G 利賀地域の保護者の中には、IターンやUターンで住まれている方が多いです。利賀地域の自然の中で暮らすことに魅力を感じ、この環境を残したいという思いで、山村留学等に協力をしている方がおられます。また、利賀地域だけではなく、南砺市全体でICTを使って交流していることを聞いています。他地域の子供たちと交流する

ことで、それぞれの地域の好きなところを共有できることは、南砺市の魅力に繋がると思います。まちづくりを考えると、旧町村の多様性を保つためにも、地域に学校を残すことは重要だと思いました。また、地域に根差した教育とありましたが、学校の教育現場の実態が見えにくい部分があります。今後、学校と地域が協力していく中で、どのように地域からの理解を進めていくのですか。

事務局 これから、地域やPTAの方に学校の運営に入っていただくことが増えると思います。井口義務教育学校の夏休みは、他の地域より短くなります。それに伴って、他の地域も学校とPTAで夏休みの期間等を決めていけるシステムを作っていこうと考えています。今後、地域やPTAの方に学校の実際の様子を知っていただき、ご意見をいただける環境をつくりたいと思います。

委員H 少子化が進んでいる中で、1つの学校に全教科の先生を配置することは難しくなります。学校全体の教員定数は決まっているため、少子化が進むと南砺市の学校は教科担任が足りなくなります。そのような現状でどう学校を残していくかが重要になります。学校は地域のコミュニティの礎だと考えます。その地域から学校がなくなるということは、地域そのものに大ダメージになります。市教委は、そのために義務教育学校を考えているのだと思います。また、チーム担任制については、メリットばかりを話すのではなく、メリット・デメリットはしっかり考え、課題を検証するべきです。小規模校、中規模校のそれぞれの良さを尊重しながら、どう残していくかという視点が必要です。今日のような委員会が開催されるのであれば、議題を1つ決め、みなさんの意見を聞く時間を設けてはいかかでしょうか。

副委員長 特認校制度や部活動の拠点校化を考えると、部活動のために他の地域の学校へ就学することは、地域に根差した教育と言えるのか疑問に思いました。また、小中学生は南砺市内の学校へ就学ですが、高校では市外に就学する場合があります。各地域で考えていますが、南砺市という地域で考えてもいいのではないかと思います。この検討委員会は、市の再編計画のように5年後に再び開催されると聞いています。今日のような委員会は定期的開催されてもいいのではないのでしょうか。

委員長 貴重なご意見をいただき、いろいろな角度から見ることができました。1つのチームとして、今日のような議論を深めていただいて、話し合いを進めていければと思います。

3. 次回協議会の日程

教育総務課長 次回の協議会についてですが、令和2年10月30日（金）午後7時を予定しております。委員の皆様には、後日ご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

4. 閉会 副委員長あいさつ

副委員長 第1回目の検討委員会でしたが、みなさんにお集まりいただき、有意義な話し合いができました。この検討委員会には9人のPTA理事を選出していただきました。PTA理事の理解を得てから、保護者の方にも再編計画について理解していただけるために、市のPTAからも発信していきたいと思います。新型コロナの影響でなかなか集まる機会がありませんが、25年後の学校や地域を良くしたいという気持ちは同じだと思います。第2回以降も素晴らしい学校や地域となるように話し合いを進めていきたいと思います。本日はありがとうございました。

教育総務課長 以上をもちまして本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。